

# 大学院ニュースレター

## 久留米大学大学院医学研究科

第 47 号 / 2008 年 6 月 12 日発行

編集 / 医学研究科長

### 『がんプロと大学院』

放射線医学講座 早 淵 尚 文 教授

文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」(以下「がんプロ」と略)が5年計画の2年目をむかえています。この事業は、九州の11の医科系大学と2つの看護系大学を合わせた13の大学院が共同で事業を推進しており、久留米大学も「九州がんプロフェッショナル養成協議会」の一員として活動しています。このことは本学の大学院ニュー・スレター-44号(2007年9月)から46号(2008年3月)までに、その詳細が報告されていますが、学内外への周知が今ひとつ欠けているように思います。そこで、担当者の一人として改めて紹介させてもらいます。

「がんプロ」はこれまでがんの治療の中心であった外科治療から、QOLの重視の流れと人口の高齢化をうけて、放射線治療や薬物療法が中心の医療への変換に対応するために必要なスタッフを養成することが目的です。養成されるスタッフは放射線腫瘍医や抗がん剤など薬物療法を行う臨床腫瘍医といった医師だけでなく、がん薬物療法看護師や放射線治療技師、医学物理士、放射線治療品質管理士など、多種類の医療関係者です。「がんブ

ロ」の推進役である文部科学省としては、これまで研究が中心であった大学院に、がん治療の臨床を任せられる専門家養成という新たなニーズを取り入れた、開かれた大学院へ発展することを求めているといえます。

このため、久留米大学では大学院医学研究科博士課程に平成20年度から個別最適医療系先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニットを開設し、さらに「化学・薬物療法専門医養成コース」と「放射線療法専門医養成コース」の二つのカリキュラムを設定したほか、修士課程には『臨床看護学群がん看護論「がん看護専門看護師教育課程」』を開設し、必要な人材の確保に努めてきました。

しかし、準備期間である平成19年度の周知期間が短期間であったため、広報・宣伝不足が影響し、残念ながら博士課程については「化学・薬物療法専門医養成コース」、「放射線療法専門医養成コース」とも平成20年度からの入学者がいませんでした。担当者の一人として平成21年度こそは入学者の確保に努めたいと思っています。

さらに、大学院を修了した社会人(専修医

等)が短期にがん専門医の資格(がん薬物療法専門医、放射線治療専門医、がん治療認定医など)を取得可能にするために大学院医学研究科の正規課程とは別に「インテンシブコース」として取り組むことにしており、本学では「科目等履修生」制度を始動しました。比較的短い期間でがん専門医の資格がとれるメリットがある反面、大学院並の高い授業料がネックになり(とはいえ一定の条件の下で学費減免制度を設定しています)本年度の博士課程の当該制度による受入は1名にとどまっています。一方、修士課程にも同様に、科目等履修生として「医科学専攻臨床看護学群

がん看護論専門看護師養成コース」が設定されており、本年3名が受講しています。こちらについても関係者への周知を強化するとともに、読者の中から受講希望者が出てくることを期待しています。

なお、「放射線療法専門医養成コース」については、その背景から現在の問題点、そして今後の展望にいたるまで著者が「日本医師会雑誌」の本年5月号に詳述していますので、そちらも参照していただければ幸いです。



## ティールーム



### 「ポートフォリオ」をご存知ですか？

#### 自身の研究成果を保全するために

医学研究科に進学して最大の目的は学位論文を作成し、博士、あるいは修士の学位を取得することにあると思います。しかし、そこに至る過程で学生の皆さんは授業科目を履修し、研究計画を立案し、様々な実験を行いながら評価・解析・討議を行うことでしょう。あるいは、必要に応じ学会発表や論文発表を行うことになるでしょう。学生の皆さんは、学年進行に応じこれらの経験を積んで自身の学位論文に到達すると思いますが、本学では「学位論文指導計画等作成に関する内規」を定め(注1) 計画的に学習を行うようモデルを提示しています。

しかし、これらの経過を辿る過程で、自身の研究実績を記録する作業をどれくらい行っているのでしょうか？実は「研究記録」「実験記録」、即ち「ポートフォリオ(注2)」は活用次第で自身の知的財産権を守る大切な武器にもなりえるのです。

今回はポートフォリオについてのQ&Aをお送りします。

Q ポートフォリオって何ですか？

A 直訳すると「紙バサミ」とも言いますが、要は「自身の研究を記録したり、実験結果の記録や手技、行程表などを記録するノート」のことを言います。また、「自身の実験関連や興味のある分野の文献をノートに切り貼りし、要点をまとめる」こともポートフォリオの大切な役割です。

Q ポートフォリオを行ううえで留意すべきことはありますか？

A 学生の皆さんは多かれ少なかれ研究ノートは作成していると思います。しかし、問題はどれだけ整理されているか、という点にあると思います。ただ単に引用された論文を記録しているのみではどうしようもありません。むしろ、自身が何に関心を引かれたのか、問題点はなにか、などをまとめておくことが必要ですし、実験記録も「見易さ」が大事だと思います。

Q 医学部の学生も最近ではPBL テュートリアルで「ポートフォリオ」を経験していると聞きますが、共通の問題点がありますか？

A 最近ではよくインターネットからの引用を記録に残すことが多いと思いますが、インターネットは不特定多数が書き込みを行っている場合が多く、全幅の信頼をおけるかどうか、自身の目で判断することが大切です。ですから、ただ単にインターネットからの引用を重ねていくだけではポートフォリオとは呼びがたいと考えます。

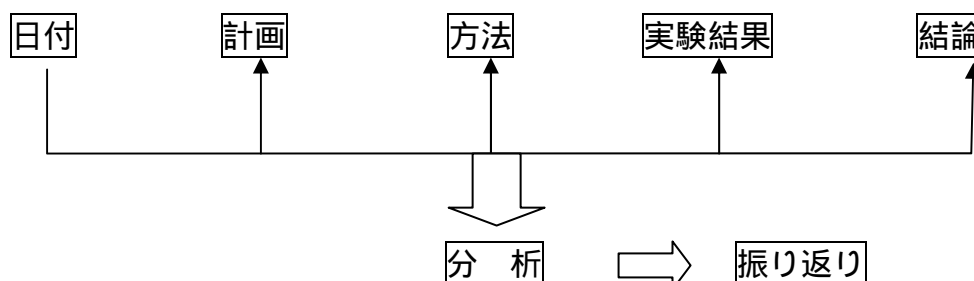
Q ポートフォリオの利点とは何でしょうか？

A 無論、自身の研究を系統立てて記録できる利点があります。しかし、指導する側からも「学修のプロセスを知ることができる」ことが特徴でしょう。従って、例えば学位論文の作成の際や、自身が学習を修了する際に、結果の評価（総括的評価）ばかりでなく結果に至る過程を評価（形成的評価）することが可能になると考えています（注3）。

Q ポートフォリオの上手な作成法はありますか？

A これを作成することにより、「どんなデータソースにあたったのか」「予想される問題点を抽出する」「参考となる論文を日本語に要約する」など様々な活用が見込めます。とはいえ、ただ単に論文のコピーだけでは物足りないのです。たとえば「一覧表を作成する」などのことは必要でしょう。下に示すのはほんの一例です。また手書きが多いこともよいポートフォリオの特徴です。手書きが多いということは、どれだけ自分で考えたかが判別しやすいといわれます。

< 記録の例 >



Q ポートフォリオを作成することに得られる効果はありますか？

A 例えばある実験を行い、その結果が得られたとします。しかし、その結果は何の変哲もない結果であったとしても、必ずしも「ゼロ」ではないのです。そのプロセスを見ることが大切であり、その実験結果はその実施者にとって大切な結果です。そうした積み重ねが大きな結果につながります。

以上のことからわかるとおり、ポートフォリオは自身の研究の過程を知る（理解してもらう）ための大切なツールであるといえます。最後にポートフォリオの意義をまとめて見ました。皆さんの参考にされて下さい。

#### ポートフォリオの意義

1. 蒐集した情報を整理し、散逸を防止する。
2. 研究プロセスを客観化し、記録として残す（捏造を防ぐ）。
3. 記録として残すことにより、学習のプロセスを知り、形成的評価を可能にする。
4. 自己の振り返りが可能であり、次へのステップにつなげることが可能

（注1）「久留米大学大学院医学研究科 学位論文指導計画等作成に関する内規」

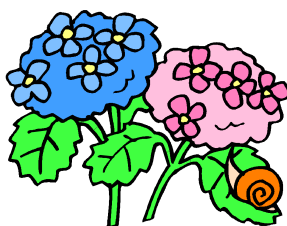
博士課程シラバス 2008 の p.223、修士課程シラバス 2008 の p.181 に掲載。大学院設置基準改正（2007年）に伴い、「大学院は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導という。」）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする（第十条の二）」が必要になったことから制定された。

（注2）「ポートフォリオ」

自身で立案した目標を基に、計画や資料・メモ類、実践方法などをまとめていくこと。これを見ることで自身への振り返りが可能とされている。また、「結果」を「目標」と照らし合わせて自ら「評価」することで能動的学習を推進する。さらにそのプロセスを知ることにより、指導する側が問題点を指摘し、評価につなげることが可能である。

（注3）「総括的評価と形成的評価」

例えば合否判定など「0 or 1」のような判定を「総括的評価」と呼ぶ。逆に学習プロセスを点検し、改善につなげるような助言を与えながら評価する方法を「形成的評価」という。形成的評価の代表例は「ポートフォリオによる評価」であろう。



## 事務通信



修士・博士課程の皆様へ

### 第20回医学教育ワークショップ開催！！

来る7月31日～8月2日にかけて、第20回医学教育ワークショップが実施されます。前回初めて設置された卒後部会としての「大学院部会」が、今回も引き続き開設されることとなり、部会での活発な議論・意見交換から、今後いっそう充実した大学院FD活動につながることで期待されます。大学院部会の概要は以下の通りです。

日 程：平成20年7月31日（木）～8月2日（土）

場 所：福岡県朝倉市杷木久喜宮 ホテル パーレンス小野屋

テーマ：大学院教育実質化とこれからの展開

目 的：平成20年代の本学大学院教育を展望するにあたり、大学院教育改革の成果を検証し、これからの大学院教育の進め方、研究の方向性と展開について検討する。

現在、この大学院部会の参加者を募集しております。参加ご希望の方は6月20日（金）までに医学部事務部教務課までお問い合わせください。



### 健康診断未受診者の方へ

医学部B棟1階保健室にて実施しております健康診断はお済みでしょうか？期日は6月20日（金）までとなっておりますので、まだの方はお早めに受診をお願い致します。なお、期間内に未受診の方は、7月11日までに健康診断証明書を健康スポーツ科学センター旭町分室まで提出されるようお願いいたします。特に、働きながら大学院に来ている社会人入学の方は、職場で健康診断が行われていると思いますので、その結果のコピーを健康スポーツ旭町分室までご提出下さい。



## ご覧になりましたか、ホームページ？

大学院医学研究科ホームページがリニューアルし、約半年が過ぎようとしております。ご利用いただけてますでしょうか？新年度に入り、カリキュラム・時間割等も続々と更新しております。また、トップページの掲示板（ ）には、休講・講義変更等の履修に関する重要なものや、提出書類のお知らせ、各種公募のご案内など、学生生活に関わる情報を逐次掲載しておりますので、見落とすことのないように、必ずチェックされるようお願いいたします。



大学院医学研究科ホームページ URL  
<http://gmed.kurume-u.ac.jp/>

掲示板はこちらです。講義変更情報等には特に注意をお願いします。

## 平成20年度 大学院セミナーシリーズ（特別講義）カリキュラム（1）

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
皮膚科学	6月19日（木） 14：30～16：00	教育1号館 5階 1501教室	順天堂大学医学部皮膚科 池田 志孝 教授	皮膚の遺伝子疾患の解析
分子生命科学 研究所 遺伝情報	6月19日（木） 16：30～18：00	基礎2号館 1階 セミナー室	熊本大学発生医学研究センター 再建医学部門 幹細胞制御分野 糸 和彦 准教授	概日周期と睡眠覚醒制御
病院病理部	7月3日（木） 18：00～19：30	筑水会館 中会議室	順天堂大学練馬病院 國分 茂博 准教授	肝硬変治療の最前線 肝癌、門脈圧亢進症を含めて

確定分（前期）をお知らせしております。現在日時未定のもの、あるいは日時・場所等に変更があったものにつきましては、確認でき次第、大学院医学研究科ホームページでお知らせいたします。また、今年度より5回以上のセミナー出席およびレポート提出により単位認定を行っております。当該科目履修者は出席およびレポートの提出をお願いいたします。

なお、レポートは各セミナー終了後1週間以内に、医学部事務部教務課までご提出ください。

## 博士課程 個別最適医療系専攻の皆様へ

### 平成20年度 博士課程個別最適医療系 共通科目 レポート提出期限について

博士課程個別最適医療系共通科目を履修された方、前期レポートの提出期限が迫っています。提出先・レポート課題をご確認のうえ、所定の期日までにご提出ください。

#### 「遺伝子多型 (SNPs)」レポート (科目責任者: 神田芳郎 教授)

課題: 『国際 HapMap 計画の意義について』  
書式及び量: 指定なし  
提出期限: 6月30日  
提出先: 医学部事務部教務課 (教育1号館2F)



#### 「ゲノム創薬の進歩」レポート (科目責任者: 児島将康 教授)

課題: 『遺伝子発現に作用する薬について』  
よく自分で使っている薬のメカニズムを説明して下さい。薬は1種類で構いません。  
書式及び量: 指定なし  
提出期限: 7月31日  
提出先: 分子生命科学研究所 児島教授

#### 「免疫関連分子とT細胞抗原レセプター多様性の解明」レポート

(科目責任者: 伊東恭悟 教授)

注 課題は4つあります。

担当者: 七條茂樹 准教授([shichijo@med.kurume-u.ac.jp](mailto:shichijo@med.kurume-u.ac.jp))

課題: 『RAG-1, RAG-2 及び Td T 分子と TCR の多様性について』

書式及び量: 自由

(わかりやすく表現するよう心がけ、また、引用文献など記載すること)

提出方法: 本文は WORD で、図表は Excel もしくは Power Point で作成して添付ファイルとしてメールで担当者宛に提出して下さい。

提出期限: 10月3日

担当者:桑野剛一 教授([kuwano@med.kurume-u.ac.jp](mailto:kuwano@med.kurume-u.ac.jp))

課題:『キラーT細胞の抗原認識における MHC 拘束性について』

書式及び量:制限なし

提出方法:文書提出が望ましい。しかし、E-mail によるファイル提出も認めます。

ただし、ファイルは、本文は WORD で、図表は Excel もしくは Power Point で作成して下さい。

提出期限:10月3日

問い合わせ:メールで問い合わせして下さい。

担当者:伊東恭悟 教授([kyogo@med.kurume-u.ac.jp](mailto:kyogo@med.kurume-u.ac.jp))

課題:『ヘルパーT細胞の抗原認識における MHC 拘束性について』

書式及び量:自由

提出方法:E-mail によるファイルで提出して下さい。ただし、ファイルは、本文は WORD で、図表は Excel もしくは Power Point で作成して下さい。

提出期限:10月3日

提出先:Furumura\_Mayumi@[med.kurume-u.ac.jp](mailto:med.kurume-u.ac.jp) 秘書、古村(ふるむら)

問い合わせ:メールで問い合わせしてください。

担当者:山田 亮 教授([akiymd@med.kurume-u.ac.jp](mailto:akiymd@med.kurume-u.ac.jp))

課題:『 $\alpha\beta$  型 T 細胞と  $\gamma\delta$  型 T 細胞、および NKT 細胞の TcR 多様性とそれらに対応する抗原について』

書式及び量:自由(総説形式が望ましい)

提出方法:本文は WORD で、図表は Excel もしくは Power Point で作成して添付ファイルとしてメールで担当者宛に提出して下さい。ファイル名の後には拡張子を必ずつけて下さい。

提出期限:10月3日

問い合わせ:メールで問い合わせして下さい。



## 編集後記

日もずいぶんと長くなり、汗ばむ陽気となりました。制度改革により新体制で臨んだ今年度も早三ヶ月経ちます。

さて、今夏は二年に一度の医学教育ワークショップ開催年です。今後の大学院がどうあるべきか、教授から学生まで大々的に議論する機会は他にありません。皆様の参加をお待ちしております。(中)